



この登録マークは製品またはサービス
そのものを保証するものではありません。



和同産業株式会社

本社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887

岩見沢営業所 〒068-0852 北海道岩見沢市大和2条3丁目9番地
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162

岡山出張所 〒708-0015 岡山県津山市神戸536-1
本社へお問い合わせください

WADOホームページ <https://www.wadosng.jp/>

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			

品番：91901-Y05-000

2021年10月

本冊子には再生紙を使用しています。

取扱説明書



発電機 WG1800is



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、和同製品をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- 本製品を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用してください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業するために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。販売店へご相談ください。

説明記号
の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]

能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の
使用目的
について

- ・本製品は、発電機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- ・使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

もくじ

はじめに

1 章 安全に作業するために必ずお守りください	1
・ 1. 使用前の注意項目	1
・ 2. 使用中の注意項目	4
・ 3. 使用後の注意項目	5
・ 4. 警告ラベルの貼付け位置	6
2 章 保証とサービスについて	8
3 章 各部のなまえ	9
4 章 各部のはたらき	11
・ ①エンジンスイッチ	11
・ ②始動グリップ	12
・ ③燃料給油キャップつまみ	12
・ ④マルチメーター	13
・ ⑤周波数切替スイッチ	16
・ ⑥エコ運転スイッチ	17
・ ⑦交流コンセント	18
・ ⑧直流プロテクタ／バッテリー充電ソケット	19
・ ⑨ USB 給電ポート	20
・ ⑩アース端子	20
・ ⑪メンテナンスカバー	21
・ ⑫キャリーハンドル	21
5 章 運転前の準備・点検	22
・ 始業点検表	22
・ 燃料の点検	23
・ エンジンオイルの点検	25
・ エアークリーナーの点検	27
・ 発電機周辺の点検	28
6 章 発電機のかけかた	29
7 章 電気の取り出しかた	31
8 章 発電機のとめかた	36

もくじ

9章	定期点検	38
10章	点検・整備のしかた	39
	・エンジンオイル	39
	・エアークリーナー	42
	・点火プラグ	44
	・マフラーキャップ・スパークアレスター	47
11章	常時使用しない場合には	49
12章	運搬する場合には	50
13章	長時間使用しないときの手入れ	51
14章	不調診断のしかた	54
15章	主要諸元	56
16章	電源の使用できる範囲	57
17章	標準付属品	58
18章	回路図	59

1 章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 使用前の注意項目



- この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり、炎や、火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。火災あるいは人身事故の原因になります。
- この発電機は車載用としては製造していませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故が起る原因となります。



- エンジンを始動する前に必ず「5 章 運転前の準備・点検」（22～28 ページ）を行ってください。事故の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟らかい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。また、保管しないでください。
雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。



- ・発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

2. 使用中の注意項目



- 使用中は建物およびその他の設備から 1 m 以上本機を離してください。
発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラーなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラーなどに触れたり、物をのせないでください。ヤケドなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
燃料漏れや振動による自然移動、転倒による思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げいただいた販売店にお申しつけください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器のプラグを外してください。プラグを外さないといたずらなどで電気機器が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

3. 使用後の注意項目



- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを“停止”の位置にし、点火プラグキャップを取り外して行ってください。



- エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1章 安全に作業するために必ずお守りください

4. 警告ラベルの貼付け位置

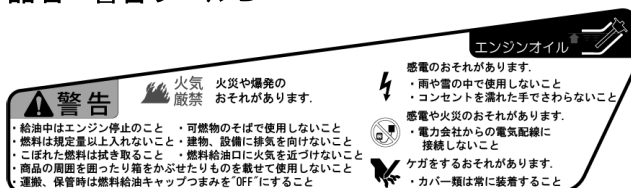
警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへの危険を知らせる大事な物です。

ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。



品番：79912-Y05-000

品名：警告ラベルB

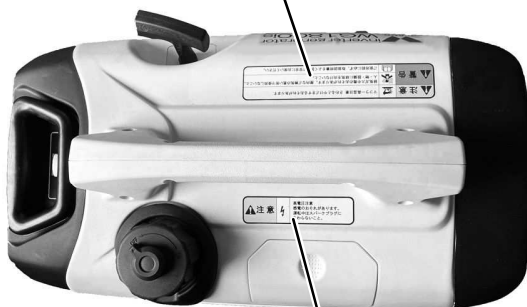


1章 安全に作業するために必ずお守りください

品番：79911-Y05-000

品名：警告ラベルA

 注意		マフラー高温注意 さわるとやけどをするおそれがあります。
 警告		排気ガス中毒のおそれがあります。屋内など換気の悪い所で使用しないこと。 人・物・設備に排気を向けないこと。
		ご使用前に必ず、取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。



品番：79913-Y05-000

品名：高電圧注意ラベル

 注意		高電圧注意 感電のおそれがあります。 運転中はスパークプラグに さわらないこと。
---	---	---

2 章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに 54 ページ「14 章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

●型式名と製造番号

●ご使用状況は？

●どのくらい使用されましたか？

13 ページ「④マルチメーター」の時間を参照ください。

(約□□時間使用后)

●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。

型式名

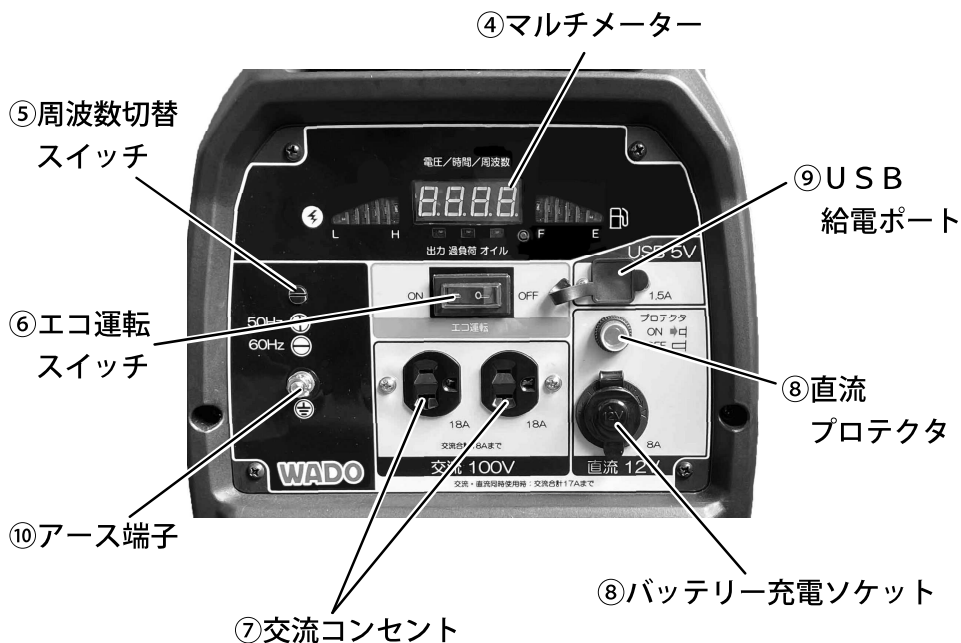


製造番号

3章 各部のなまえ



コントロールパネル



4章 各部のはたらき

① エンジンスイッチ

発電機を運転、停止するときに操作します。

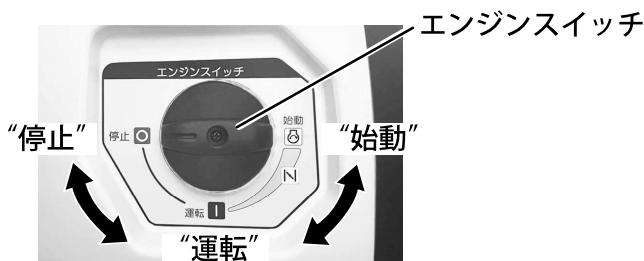
始動・・・エンジン始動時の位置

運転・・・エンジン運転時の位置（エンジンが暖まっている場合は、この位置でも始動できます）

停止・・・エンジン停止時および保管時の位置

エンジンスイッチはチョークと燃料コックを兼ねています。
それぞれの状態は下表の通りです。

エンジンスイッチ	停止	運転	始動
チョーク	OFF（開）	OFF（開）	ON（閉）
燃料コック	OFF	ON	ON



②始動グリップ

発電機を始動する際に操作します。



③燃料給油キャップつまみ

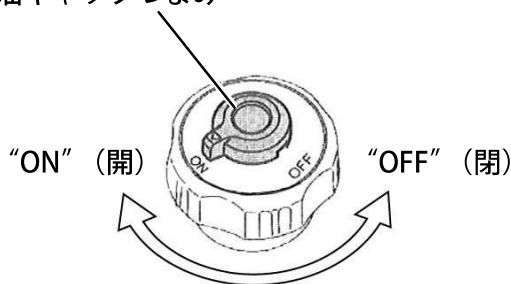
燃料給油キャップつまみは、燃料タンク内と外気との通気穴の開閉装置です。発電機を運転、停止するときに操作します。

操作は確実に“ON”（開）“OFF”（閉）の位置にしてください。

“ON”（開）…発電機運転時

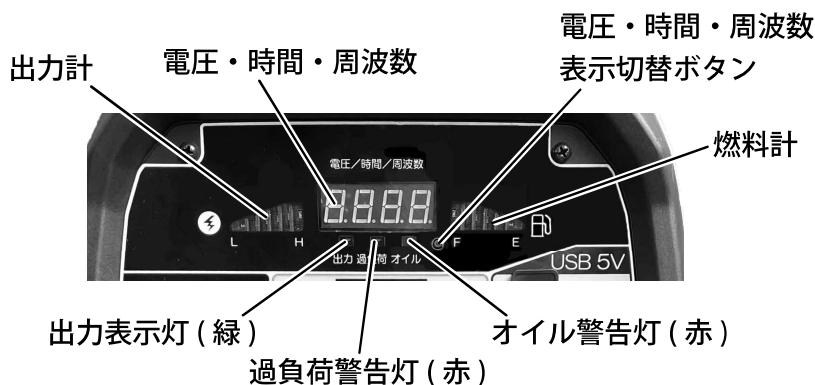
“OFF”（閉）…停止、運搬、保管時

燃料給油キャップつまみ



4章 各部のはたらき

④マルチメーター



・電圧

出力している電圧 (V) を表示します。

表示例	電圧	表示
	103V	U103



・時間

累計使用時間 (h) を表示します。

表示例	時間	表示
	3.0 時間	3.0



・周波数

出力している周波数 (Hz) を表示します。

表示例	周波数	表示
	50Hz	F-50



[参考]

- ・運転中にマルチメーター右下の表示切替ボタンを押すことにより“電圧”、“時間”、“周波数”を順次表示します。
- ・エンジン始動時は“電圧”表示になっています。

4章 各部のはたらき

・出力表示灯 (緑)

正常運転時に点灯します。

過負荷運転時や使用電気機器の異常時に点滅し、点滅が数秒～数十秒続くと消灯して、電気が取り出せなくなります。

※過負荷運転…発電機の発電量よりも接続された電気製品の使用する電力が大きい場合

状態		出力表示灯 (緑)	過負荷警告灯 (赤)	マルチ メーター	備考
正常運転時		点灯	消灯	電圧・周波数・ 時間を表示	
過負荷 運転時	少し 過負荷	点滅 (数秒～数十秒間。負荷状況による)	消灯		・数秒～数十秒後に “出力停止”に移行 ・燃料やオイル不足 時に点灯する場合 あり
	大きく 過負荷		点灯		
電気機器の短絡 (ショート)		消灯	点灯	U000	
出力停止時		消灯	点灯	U000	

・過負荷警告灯 (赤)

電気機器の短絡（ショート）や過負荷運転時、出力停止時に点灯します。

過負荷運転が数秒～数十秒続くと、出力表示灯 (緑) が消灯し、過負荷警告灯 (赤) が点灯して、電気が取り出せなくなります。（負荷状況により、エンジンが停止する場合があります）

注意

過負荷警告灯（赤）が点灯して電気が取り出せなくなった場合、復帰させるにはエンジンスイッチを“停止”の位置にして、電気機器を取り外してから発電機を再始動してください。電源の使用できる範囲（57 ページ参照）であることを確認して使用ください。

取り外さないで始動した場合、接続した電気製品が誤って動作し、ケガを負うおそれがあり大変危険です。

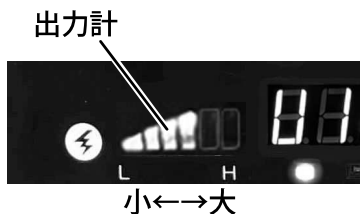
・オイル警告灯（赤）

エンジンオイルが不足すると点灯し、エンジンが自動的に停止します。エンジンオイル量を点検し、補給してからエンジンを再始動してください。（点検、補給は 25 ページ参照）

・出力計

電気の使用量に応じて出力計ランプ表示が増減します。

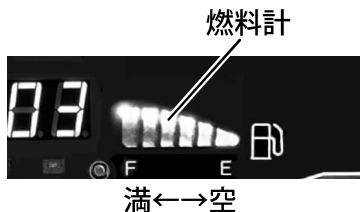
使用電力の目安としてご利用ください。



・燃料計

燃料残量をランプ表示します。

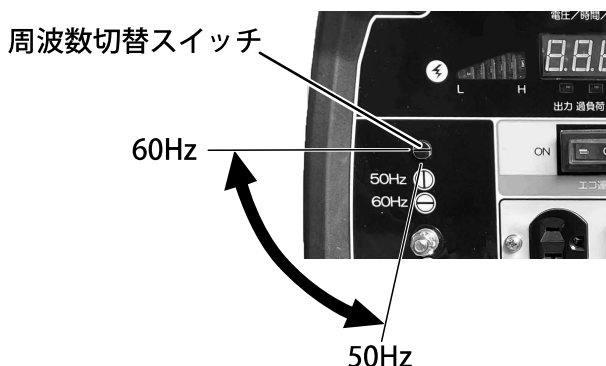
ご使用時間に応じて給油してください。



⑤周波数切替スイッチ

周波数の切替え（50Hz ⇄ 60Hz）を行うスイッチです。

エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせ周波数をマイナスインバーなどで切替えてください。「カチッ」と音が出る位置に合わせてください。



[参考]

50Hz に切り替えたとき、スイッチは完全に垂直にはなりません。
（下図参照）



[重要]

周波数切替スイッチの操作はエンジン停止中に行ってください。
エンジン運転中には切替えを行わないでください。

⑥エコ運転スイッチ

エコ運転は、使用電力に応じてエンジン回転を変化させ、燃料消費と騒音を減らします。

スイッチ	エンジン回転数	効果・特徴
ON	使用電力に応じて変動	・燃料消費と騒音を減らす
OFF	ほぼ一定	・使用電力変動の大きい機器に適する（モーター動力の機器に適する） ・使用電力が高い機器（定格出力以下）に適する ・バッテリー充電ソケット使用時は“OFF”指定

- ・スイッチ“ON”では保護装置が働いて電気が取り出せない場合でも、スイッチ“OFF”にすると取り出せることがあります。

エコ運転スイッチ



[重要]

バッテリー充電ソケット使用時は必ずエコ運転スイッチは“OFF”で使用してください。

⑦交流コンセント

交流電気を取り出すところです。
コンセントへプラグを差し込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。

使用電力は、使用する機器の合計が発電機の発電量の上限を超えないでください。（57 ページ参照）

交流コンセント 100V 最大 18A [1800W (VA)]



[重要]

交流コンセント 1	交流コンセント 2	バッテリー 充電ソケット	合計
1800W (VA)	0W (VA)	0W	1800W (VA)
0W (VA)	1800W (VA)	0W	1800W (VA)
1200W (VA)	600W (VA)	0W	1800W (VA)
1100W (VA)	600W (VA)	100W	1800W (VA)

→ バッテリー充電ソケット使用時は、交流コンセントの使用電力を 1700W (VA) 以下にしてください。

⑧直流プロテクタ／バッテリー充電ソケット

直流プロテクタは直流回路を保護します。

出力中に異常があった場合や電気の取り出し過ぎの時にプロテクタが作動し電気が取り出せなくなります。

プロテクタが切れた場合はすぐに“ON”にしないで少なくとも2分間以上待ってください。接続配線に異常がないか、また電気の取り出し過ぎがないか確認してからプロテクタを“ON”にします。無理に“ON”にすると破損するおそれがあります。



直流プロテクタ	バッテリー充電ソケット USB 給電ポート
 ON	使用可能
 OFF	使用できない

バッテリー充電ソケットは直流電気を取り出すところです。交流電気を使用していても直流電気を取り出すことができます。

12V バッテリー充電用ケーブル（付属品）のプラス、マイナスは極性に注意し、接触不良のないように確実に接続してください。



[重要]

- ・ バッテリー充電ソケット使用時は必ずエコ運転スイッチは“OFF”で使用してください。
- ・ 車両等のシガーライターやシガーソケットアクセサリは使用しないでください。

4章 各部のはたらき

⑨ USB 給電ポート

USB に電力を出力する端子です。
接続する USB 機器の取扱説明書を
よく読んでご使用ください。

USB 給電ポート 5V 1.5A



⑩アース端子

発電機をアースする端子です。
発電機に接続する電気機器を大地にアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。

アース端子



警告

アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。
アースに関する不明点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

⑪メンテナンスカバー

エンジンオイルの量を点検、補給、エアークリーナーの清掃、燃料抜きなどをするときに取り外します。

メンテナンスカバーは取付けネジが自重で傾くまでゆるめ、取付けネジを引っ張って取り外します。



① “ゆるめる”

② “引っ張る”

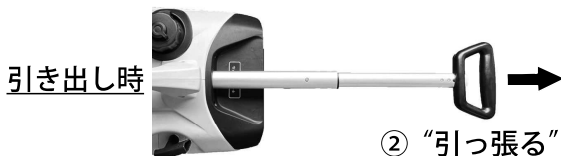
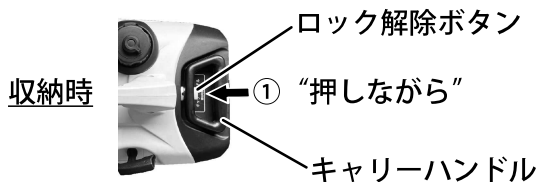
[参考]

取付けネジをゆるめ続けると、取付けネジが外れます。

⑫キャリーハンドル

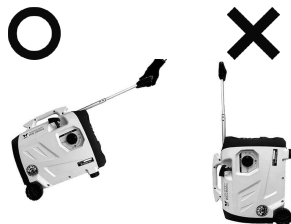
本機を運搬するためのハンドルです。

ハンドルの引き出し・収納はロック解除ボタンを押しながら行います。運搬時以外は、ハンドルを収納してください。



[重要]

本機を縦置きしないでください。製品が正常に動作しないおそれがあります。



5 章 運転前の準備・点検



点検・整備は平坦な場所で発電機を水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

始業点検表

点検箇所	内容	参照ページ
燃料	点検・補給	2 3
エンジンオイル	点検・補給	2 5
エアークリーナー	点検	2 7
発電機周辺	点検	2 8

燃料の点検



エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料は非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 換気の良い場所で補給してください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

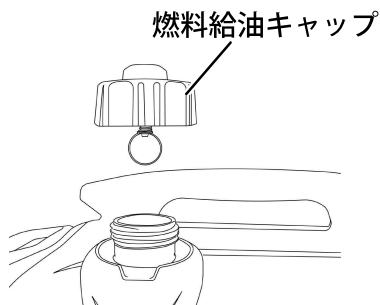
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。

- ・ 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- ・ 燃料は口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点検

燃料給油キャップを外し、燃料が注入口のレベル（給油限界位置）以下であることを確認します。少ない場合は補給します。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

1. 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
2. 補給後、キャップを確実に締め付けてください。



[重要]

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- 燃料は自然劣化しますので、30日に1回、定期的に新しい燃料と入れ替えてください。エンジンが始動できないなど、正常に動作しないおそれがあります。

エンジンオイルの点検

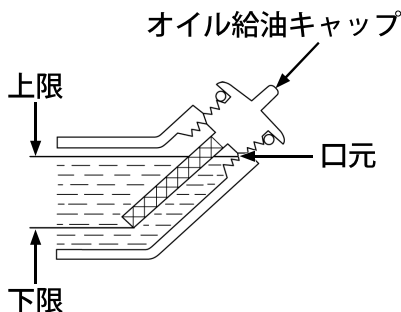
点検

1. メンテナンスカバーを取り外します。（21 ページ参照）
2. オイル給油キャップを外し、上限までオイルがあることを確認します。汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は 40 ページ参照）

水平置き作業
（傾けない）



オイル給油キャップ



エンジンオイルの漏れがないことを確認してください。火災の原因となります。

補給

1. 油面が下限に近いときは、新しいオイルを口元まで補給します。
こぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。

推奨オイル：API 分類 SE 級以上 SAE10W-30 オイル

2. 点検・補給後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けてください。

[重要]

- 定期的にオイルを給油しないと、エンジンが緊急停止するなど製品が正常に動作しないおそれがあります。
- オイル給油キャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 本機が傾いた状態で給油キャップを外すと、オイルがあふれ出る場合があります。

3. メンテナンスカバーを確実に取り付けます。

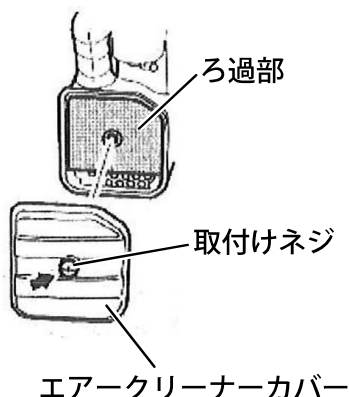
エアークリーナーの点検

点検

1. メンテナンスカバーを取り外します。
(21 ページ参照)

2. エアークリーナーカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取り外します。

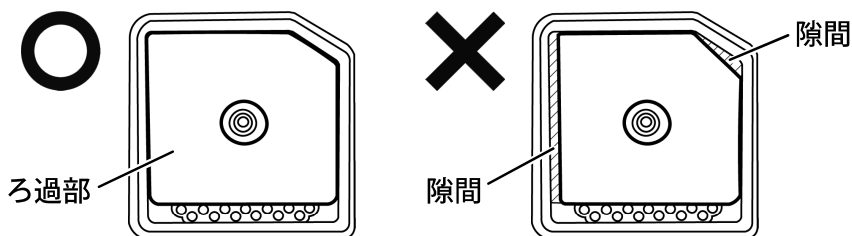
3. ろ過部の汚れ具合を確認します。
汚れのひどい場合は、ろ過部の清掃をします。(清掃方法は 42 ページ参照)



4. エアークリーナーカバーを確実に取り付けます。
5. メンテナンスカバーを確実に取り付けます。

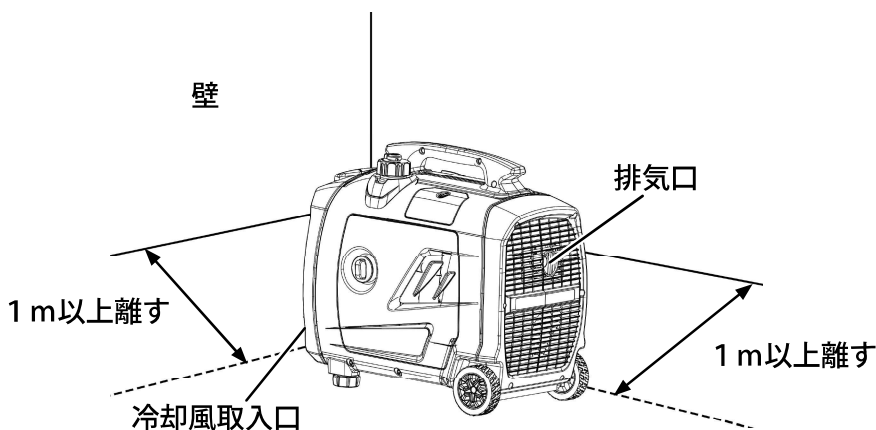
[重要]

カバーの取り付けが不完全であったり、ろ過部が変形して取り付けられた場合、またカバーやろ過部が取り付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部などは確実に取り付けてください。



発電機周辺の点検

- ・燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
 - ・建物および他の設置物から1 m以上離れていますか。
 - ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
 - ・排気口および冷却風取入口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
 - ・周囲に火の気はないですか。
 - ・発電機をダンボール等で囲っていませんか。
 - ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
- やむをえず使用する場合は、発電機の下に燃えにくい板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地では使用しないでください。



6章 発電機のかけかた

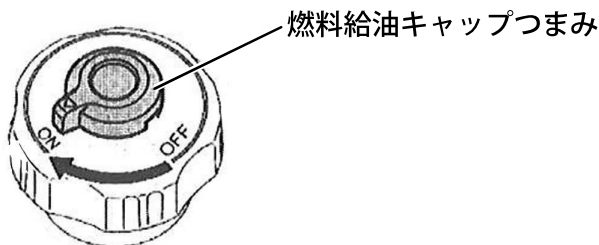


- ・室内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。



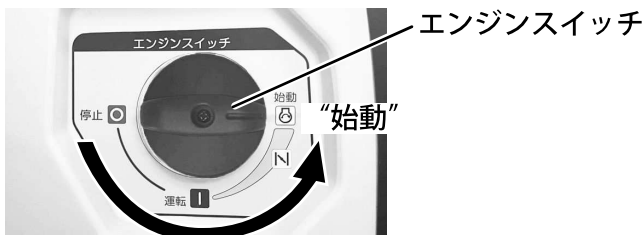
- ・発電機のコンセントから電気機器のプラグが抜いてあることを確認してください。電気機器が接続されたまま発電機を始動すると、電気機器が不意に作動を始め思わぬケガや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1. 燃料給油キャップつまみを“ON”（開）の位置にします。



2. エンジンスイッチを“始動”の位置にします。

エンジンが暖まっているときは、“逆転”の位置でも始動可能です。



6章 発電機のかけかた

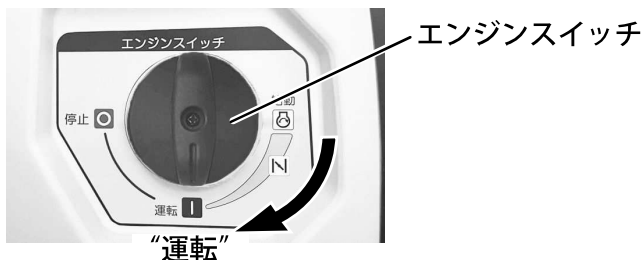
3. 本機の取手を押さえ、始動グリップを静かに引いて、重くなる所で止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



[重要]

- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。引いた位置から手を離すと、始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

4. エンジンスイッチを“始動”の位置で始動したときは、エンジンの回転が安定したらエンジンスイッチを“運転”の位置にして暖機運転を行います。



7章 電気の取り出しかた

電気機器を接続する前に必ず「安全に作業するために必ずお守りください」の項目をよくお読みください。



- ・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災あるいは人身事故、または本機や使用電気機器が故障する原因となります。
- ・発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。守らないと、ケガをするおそれがあります。
- ・使用する電気機器・電源プラグは電気機器の説明書に従ってください。

[重要]

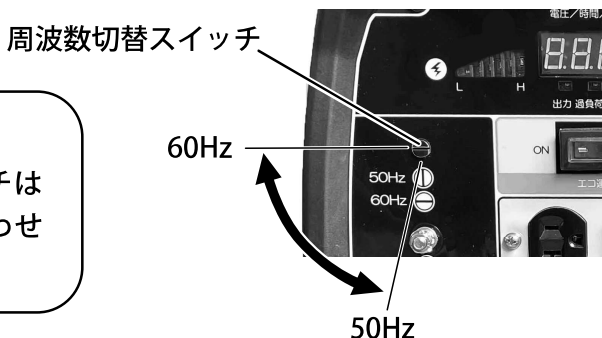
使用する電気機器の消費電力を確認し、電源の使用できる範囲内で電気機器を使用してください。（57 ページ参照）

交流

1. 周波数切替スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。（16 ページ参照）

[重要]

※周波数切替スイッチはエンジン始動前に合わせる必要があります。



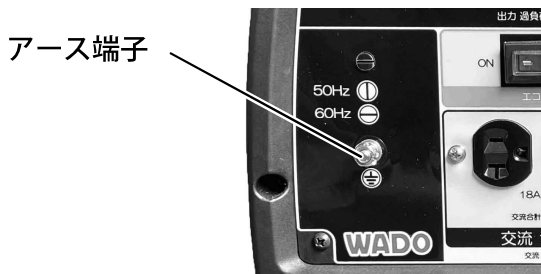
7章 電気の取り出しかた

2. 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。



アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。

アースに関するご不明点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。



3. 「6章 発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。(29～30ページ参照)

- ・下図のように出力表示灯(緑)が点灯せず、過負荷警告灯(赤)が点灯した場合はエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを一旦停止させて、負荷が定格出力以下であることを確認してから、エンジンを再始動してください。(14ページ参照)



出力表示灯(緑)

過負荷警告灯(赤)

7章 電気の取り出しかた

4. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。



接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬケガや事故を起こす可能性があります。

交流コンセント 100V 最大 18A
[1800W (VA)]



5. 電気機器のスイッチを入れます。

- ・ 正常運転（定格出力負荷以下）ご使用の場合は、出力表示灯（**緑**）が点灯し続けます。

正常運転の場合



出力表示灯（緑）が点灯

過負荷運転や短絡の場合



過負荷警告灯（赤）が点灯

- ・ 出力表示灯（**緑**）が点灯せず、過負荷警告灯（**赤**）が点灯した場合はエンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを一旦停止させて、負荷が定格出力以下であることを確認してから、エンジンを再始動してください。

直流



- この発電機は 12V の開放型バッテリー（鉛蓄電池）を充電できます。二輪用や密閉型、電圧・電流の調整が必要なバッテリーは充電しないでください。
- バッテリーは、バッテリーの取扱説明書をよく読みお取り扱いください。
子供など取り扱い方法を理解していない者に触れさせないでください。ケガをするおそれがあり大変危険です。
専用の充電器があるものは、指定の充電器をご使用ください。
- バッテリー液は可燃性でかつ人体に有毒です。
充電の際は、風通しのよいところで行い、周辺に可燃物や火気を近づけないでください。爆発や火災のおそれがあり大変危険です。
充電中はバッテリーを転倒させたり衝撃を与えたりしないでください。また、メガネなどの保護具を着用してください。失明や火傷などのケガを負うおそれがあります。
バッテリー液に触れた場合は多量の水で洗い流すなど、バッテリーの取扱説明書に従って対処してください。

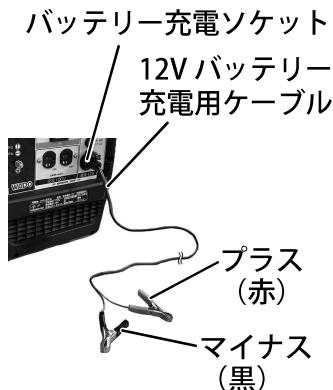
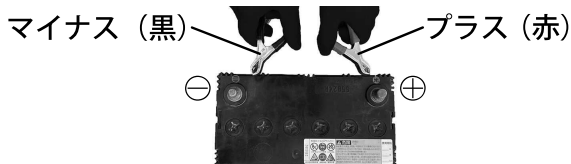
[重要]

- 12V バッテリー充電用ケーブルを使用中は、エコ運転を“OFF”にしてください。正常に充電されないおそれがあります。
- 交流コンセントと併用する際は、交流コンセントの使用電力は 1700W（VA）までにしてください。過負荷保護装置が作動して発電機が緊急停止するおそれがあります。

7章 電気の取り出しかた

バッテリー充電ソケットと 12V バッテリー充電用ケーブルの使用方法

1. 12V バッテリー充電用ケーブルを
バッテリー充電ソケットに接続します。
2. 12V バッテリー充電用ケーブルを
バッテリーに接続します。
 - ・接続はプラス（赤）、マイナス（黒）
の順に行います。



- ・12V バッテリー充電用ケーブルのつなぎ方を間違えないでください。ショートするおそれがあり大変危険です。
- ・充電するバッテリーはあらかじめ液口栓を開けておいてください。爆発のおそれがあり、大変危険です。

12V 開放型バッテリー
(鉛蓄電池)



3. 「6章 発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。（29～30 ページ参照）
4. エコ運転を“OFF”にします。
充電が開始されます。充電時間の目安はバッテリー付属の取扱説明書をご確認ください。
5. 充電完了後は、エンジンを停止してから、接続と逆の手順で取り外してください。

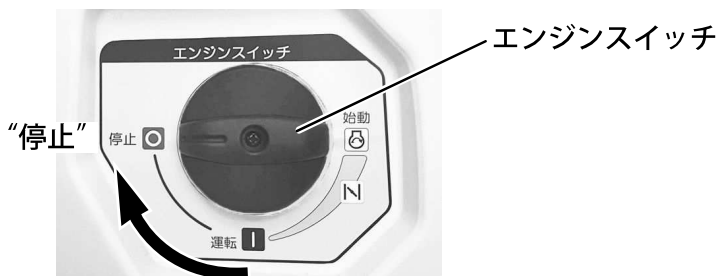


- ・充電中はガスが発生します。火気や可燃物は近づけないでください。爆発のおそれがあり大変危険です。
- ・液口栓は充電完了後 30 分以上冷やしてから確実に閉めてください。ガスが容器の中に充満し、破裂するおそれがあり大変危険です。

8章 発電機のとめかた

緊急停止の場合

エンジンスイッチを“停止”の位置までしっかりと回します。



通常の停止（交流コンセント、USB 給電ポート）

1. 電気機器のスイッチを切ります。
2. プラグ、ケーブルを発電機から抜きます。
3. エンジンスイッチを“停止”の位置までしっかりと回します。

通常の停止（バッテリー充電ソケット）

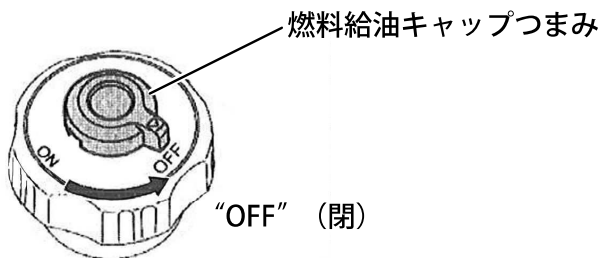
1. エンジンスイッチを“停止”の位置までしっかりと回します。
2. バッテリー端子をマイナス（黒）、プラス（赤）の順に外します。
3. 12V バッテリー充電用ケーブルを発電機から抜きます。



警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐためにエンジンスイッチを“停止”の位置にしてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

4. エンジンが十分冷えてから、燃料給油キャップつまみを“OFF”（閉）の位置にします。



警告

発電機を運搬するときや、保管および点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料給油キャップつまみを“OFF”（閉）の位置にしてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

長時間運転しない場合、または長期間格納する場合は、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。（51 ページ参照）

9章 定期点検

機械の整備不良による事故を未然に防止するため、定期点検を行い各部の安全を確保してください。

定期点検表

点検・調整箇所		点検時期 *3	作業前 点検	6 ヶ月または 100 時間運転 ごと	12 ヶ月または 300 時間運転 ごと	参照ページ
点火プラグ	点検・清掃			○		44
	交換			200 時間ごと		-
燃料	点検・補給		○			23
燃料ホース	点検		○			-
	交換			24 ヶ月ごと *4		-
エンジンオイル	点検		○			25
	交換			○ *1		39
エアークリーナー	点検		○ *2			27
	清掃			○		42
マフラーキャップ／ スパークアレスター	点検・清掃			○		47
燃料フィルター	点検・ 清掃または交換				○	-

- * 1. 初回は、1 ヶ月または 20 時間運転時に行ってください。
- * 2. ほこりの多い場所で使用した場合は、10 時間運転ごとまたは 1 日 1 回点検を行ってください。
- * 3. 点検時期は表示の期間ごとまたは運転時間ごとのどちらか早い方で実施してください。
- * 4. これらの項目は、適切な工具と整備の技術を必要としますので、お買い上げの販売店へご連絡ください。

10章 点検・整備のしかた



点検・整備は平坦な場所で発電機を水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。



エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイル

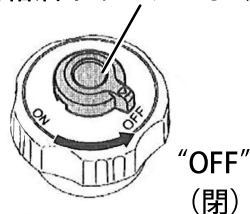
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

推奨オイル：API 分類 SE 級以上 SAE10W-30 オイル
規 定 量 ：0.38 リットル

交換のしかた

1. 発電機を水平面に置き、燃料給油キャップつまみを“OFF”（閉）にします。
“OFF”にしないと燃料がこぼれるおそれがあります。

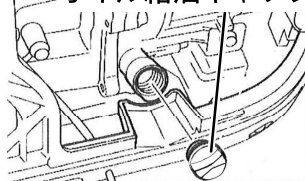
燃料給油キャップつまみ



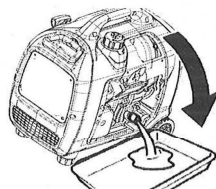
2. メンテナンスカバーを取り外します。

3. オイル給油キャップを取り外します。

オイル給油キャップ

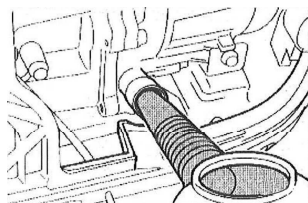


4. エンジンの下にオイルパンを置き、発電機を傾けてオイルを完全に排出します。

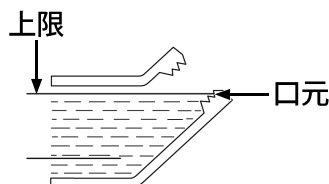


5. 発電機を水平面に戻します。

〔重要〕 エンジンオイルを補給するときは、発電機を傾けないでください。オイルが燃焼室に入り、エンジン不具合が発生することがあります。



6. 新しいエンジンオイルを給油口の口元まで注入します。
こぼれたオイルは布切れなどでふき取ってください。



7. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けます。
8. メンテナンスカバーを確実に取り付けます。

[重要]

- オイル給油キャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。
法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

エアークリーナー

エアークリーナーが目詰りをするとう発電機の性能の低下や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

1. メンテナンスカバーを取り外します。(21 ページ参照)
2. エアークリーナーカバーの取付けネジをゆるめて、カバーを取り外します。
3. ろ過部を取り外します。
4. ろ過部を洗浄・乾燥・含油して固くしぼります。

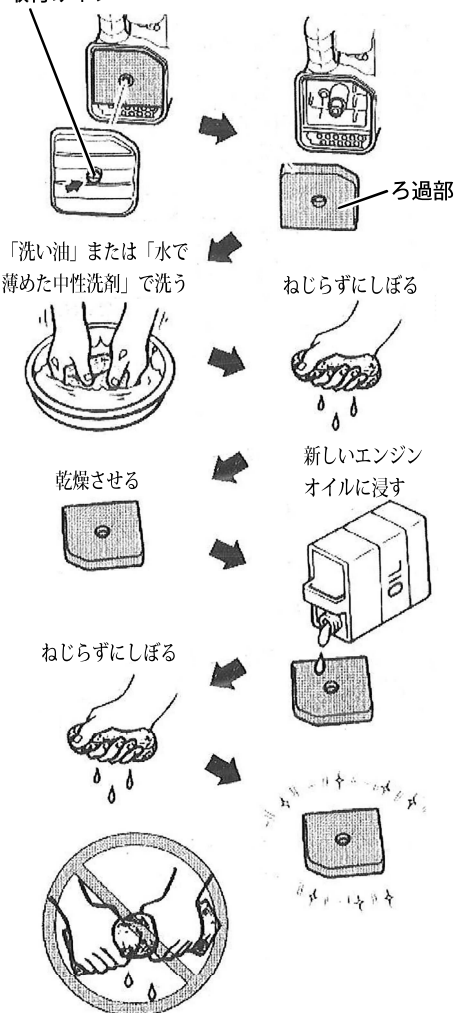
- ・ろ過部は、ねじらずにしぼってください。
- ・エンジンオイル：API 分類 SE 級以上 SAE10W-30 オイル



洗油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。

洗浄は換気の良い場所で行ってください。

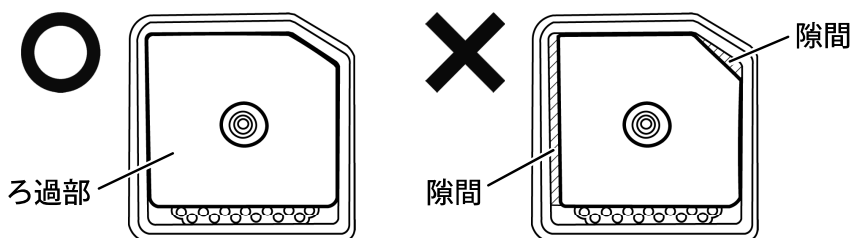
エアークリーナーカバー
取付けネジ



5. ろ過部、エアークリーナーカバーを確実に取り付けます。

[重要]

カバーの取り付けが不完全であったり、ろ過部が変形して取り付けられた場合、またカバーやろ過部が取り付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部などは確実に取り付けてください。



6. メンテナンスカバーを確実に取り付けます。

点火プラグ

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因となるので、定期的に清掃・調整しましょう。



エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー、点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

[重要]

- 点火プラグは必ず指定のものを使用してください。守らないとノイズの発生などにより正しく動作しなかったり、故障の原因となるおそれがあります。
- 点火プラグの取り付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くいっばいまでねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取り付けてください。確実に取り付けないとエンジン不調の原因となります。

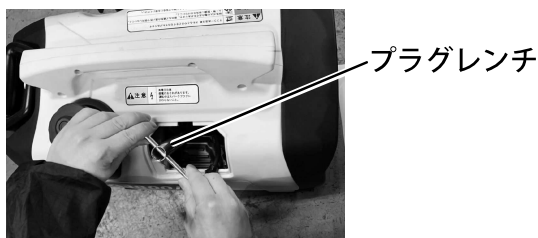
指定プラグ：BPR7HS（NGK）

清掃・調整のしかた

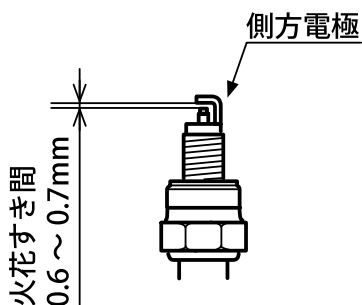
1. プラグカバーを取り外します。



2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. プラグレンチで点火プラグを取り外します。



4. 点火プラグが汚れていたら清掃します。ワイヤーブラシなどで清掃してください。
5. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間の目安：0.6 ～ 0.7mm

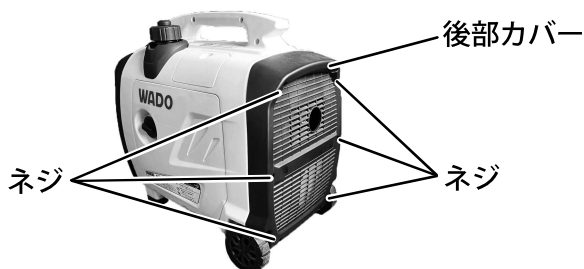


6. 取り付けはネジ山を壊さないように、まず指で軽くいっぱいまでねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。
8. プラグカバーを確実に取り付けます。

マフラーキャップ・スパークアレスター

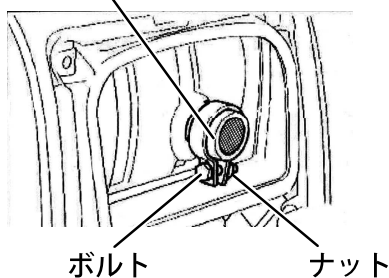
清掃のしかた

1. 後部カバーを取付けているネジ（6カ所）を外し、後部カバーを取り外します。



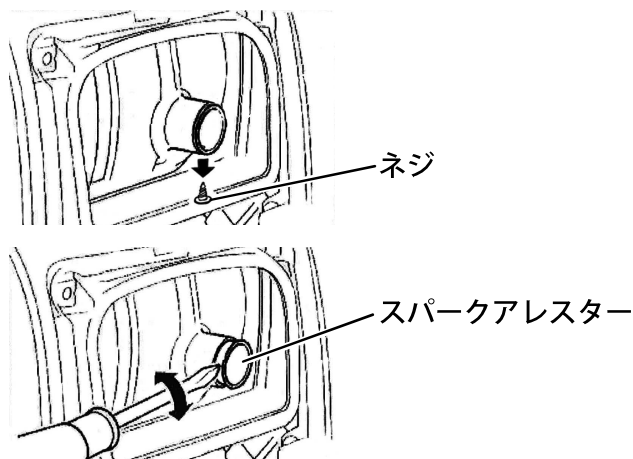
2. ボルトとナットを緩め、マフラーキャップを取り外します。

マフラーキャップ

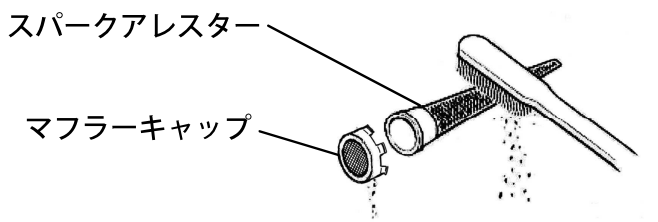


10章 点検・整備のしかた

3. スパークアレスターを固定しているネジを取り外し、スパークアレスターを取り外します。



4. ワイヤブラシを使用して、マフラーキャップとスパークアレスターのカーボン堆積物を取り除きます。マフラーキャップとスパークアレスターの損傷を避けるため、ワイヤブラシは力を入れずに使用してください。



5. マフラーキャップとスパークアレスターを確認し、損傷がある場合は交換します。
6. スパークアレスター、マフラーキャップを取り付けます。
7. 後部カバーを確実に取り付けます。

1 1 章 常時使用しない場合には

非常時電源などの用途で常時使用しない場合には、いつでも使えるように毎月 1 回試運転を行ってください。燃料やエンジンオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

[重要]

- ・燃料は自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しい燃料と入れ替えてください。
- ・エンジンオイルは自然劣化しますので定期点検表（38 ページ参照）に従い交換してください。

試運転のしかた

1. 「5 章 運転前の準備・点検」に従って、燃料、エンジンオイル、エアークリーナーを点検します。（22 ～ 28 ページ参照）
2. 「6 章 発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。（29 ～ 30 ページ参照）
3. 照明機器や電気ストーブなど使用電力が一定な機器を接続し、10 分以上運転します。
4. エンジンの調子、エンジンオイル、燃料の漏れ、出力表示灯（**緑**）、エンジンスイッチの作動を確認します。

1 2 章 運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

1. エンジンスイッチを“停止”の位置にします。
2. エンジンが十分冷えてから、燃料給油キャップつまみを“OFF”（閉）の位置にします。
3. 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。



- 燃料は燃料タンク注入口のレベル（給油限界位置）以上に入れないでください（24 ページ参照）。燃料を入れ過ぎると、運搬の途中で燃料が漏れる場合があります危険です。
- 車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。
車内の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になり危険です。
- 車のトランクに発電機を積んだまま長時間悪路を走行しないでください。

13章 長時間使用しないときの手入れ

長時間運転しない場合、または長時間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- ・燃料を抜かないと、自然劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。



燃料は非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料はこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。燃料をふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。



エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

13章 長時間使用しない時の手入れ

1. 発電機各部の清掃を行います。

エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンを停止させてください。

(36 ページ参照)

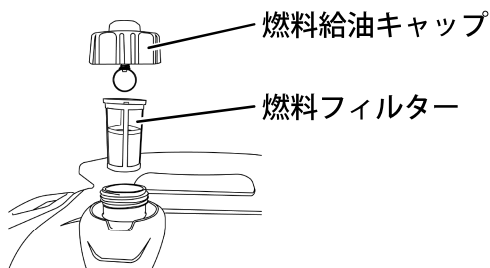


発電機を水洗いしないでください。

電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エアークリーナーを清掃します。(42 ページ参照)

3. 燃料給油キャップと燃料フィルターを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内の燃料を専用容器に移してください。



燃料を移し替える際は、電動式のポンプは使用しないでください。

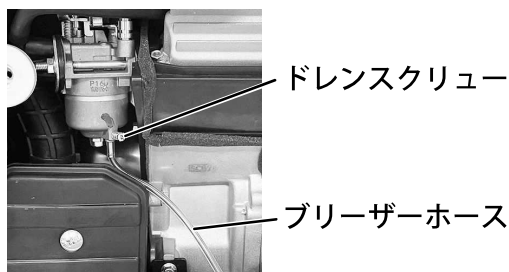
燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。

13章 長時間使用しない時の手入れ

4. キャブレター、燃料ポンプ内の燃料を抜きます。
燃料を受けるため、適切な容器を配置してください。

[重要] 燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。

- － 1. メンテナンスカバーを取り外します。(21 ページ参照)
- － 2. エンジンスイッチを“運転”位置にします。(11 ページ参照)
- － 3. キャブレターのドレンスクリューをドライバーでゆるめてブリーザーホースから出る燃料を容器に受けます。



- － 4. 完全に燃料が抜けたらエンジンスイッチを“停止”位置にします。
(36 ページ参照)
 - － 5. ドレンスクリューを締めます。
 - － 6. プラグカバーを取り外し、点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。
 - － 7. プラグカバーとメンテナンスカバーを確実に取り付けます。
5. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
6. 発電機が冷えていることを確認し、シート等をかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

[重要] 次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

14章 不調診断のしかた

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買い上げいただいた販売店へ点検・修理をご依頼ください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが 始動しない	正しい手順で始動していますか	29 ページ「6 章 発電機のかけかた」を参照し正しい手順で行なってください。 エンジンが暖まっている場合は“運転”の位置でも始動可能です
	燃料が無くなっていませんか	24 ページを参照し補給してください
	始動グリップを引いたときにオイル警告灯（赤）が点灯していませんか	発電機が傾斜していないことを確認してください。 25 ページを参照してオイル量を確認し、少ない場合は規定量入れてください。 オイルが上限まで入っていてもオイル警告灯（赤）が点灯する場合は、販売店に連絡し修理を受けてください
	点火プラグキャップが外れていませんか	45 ページを参照し点火プラグキャップを取り付けてください
	点火プラグが汚れていませんか	45 ページを参照し点火プラグを清掃してください
	点火プラグの火花すき間は適正ですか	45 ページを参照し火花すき間を調整してください。 調整が正しく行えない場合は、新しい点火プラグと交換してください。
	点火プラグが濡れていませんか	販売店に連絡し修理を受けてください
	エアークリーナーのろ過部が目詰まりしていませんか	42 ページを参照し、ろ過部を清掃もしくは交換してください
	マフラーキャップ・スパークアレスターが目詰まりしていませんか	47 ページを参照しマフラーキャップ・スパークアレスターを清掃してください
	燃料系統が目詰まりしていませんか	販売店に連絡し修理を受けてください

14章 不調診断のしかた

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが 停止する	オイル警告灯 (赤) が点灯していませんか	発電機が傾斜していないことを確認してください。 25 ページを参照してオイル量を確認し、少ない場合は規定量入れてください。 オイルが上限まで入っていてもオイル警告灯 (赤) が点灯する場合は、販売店に連絡し修理を受けてください
電気が 取り出せない	過負荷警告灯 (赤) が点灯していませんか	使用している電気機器に異常がないかを確認してください 57 ページを参照し使用できる範囲を超えていないかを確認してください 9 ページを参照し冷却風取入口がふさがれていないかを確認してください
電気機器の 出力が足りない	周波数切替スイッチの設定が間違っていますか	16 ページを参照し接続する電気機器に合わせて周波数切替スイッチを設定してください
バッテリーが 充電されない	直流プロテクタが「OFF」状態になっていませんか エコ運転スイッチが「ON」状態になっていませんか	19 ページを参照し直流プロテクタを「ON」状態にしてください 17 ページを参照しエコ運転スイッチを「OFF」状態にしてください

15章 主要諸元

項目		型式名	WG1800is
エンジン形式			空冷4サイクル
総排気量			79 cm ³
始動方式			リコイルスターター
使用燃料			無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量			4 リットル
推奨エンジンオイル			API 分類 SE 級以上 SAE10W-30
エンジンオイル規定量			0.38 リットル
発電部型式			多極界磁回転型
寸法	全長		505mm
	全幅		315mm
	全高		495mm
乾燥質量			23 kg
交流	定格周波数		50Hz / 60Hz
	定格電圧		100V
	定格電流		18A
	定格出力		1800VA
直流	定格電圧		12V
	定格電流		8A
	定格出力		96W
電圧調整方式			インバーター式
交流コンセント			18A × 2 個
交流過電流保護装置			インバーター内蔵式
バッテリー充電ソケット			12V バッテリー充電用ケーブル (付属品)
USB 給電ポート			5V - 1.5A (1 個)
直流過電流保護装置			直流プロテクタ (10A)
連続運転時間	4/4 負荷 (エコ SW “ON” 時)		3.5 時間以上
	1/4 負荷 (エコ SW “ON” 時)		6.5 時間以上

この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

16章 電源の使用できる範囲

交流電源の使用できる範囲

オーブントースター 電気ポット 炊飯器	交流のみ	1800W（VA）まで
テレビ 照明（白熱灯、ハロ ゲン灯など）	交流・直流併用	1700W（VA）まで
ドリル ジグソー 掃除機 コンプレッサー 照明（水銀灯、メタルハライドラン プなど）※1		400W（VA）まで モーターは起動電流の多い製品、または種 類によっては使用できない場合があります。 詳しくは、お買い上げいただいた販売店 にご相談ください。

※1：安定器の付いた放電タイプのランプ（水銀灯、メタルハライドランプなど）を
消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機
や使用電気機器に不具合が発生するおそれがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがありま
す。お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

直流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。

USB 給電ポート	5V - 1.5A まで	エコ運転 ON/OFF
バッテリー充電ソケット	12V 開放型バッテリー（鉛蓄電池）	エコ運転 OFF

17章 標準付属品

標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
	保証書、安全確認カード	1	
91901-Y05-000	取扱説明書 (WG1800is)	1	
70003-00917-00	じょうご	1	エンジンオイル用
20196-00137-00	12V バッテリー充電用ケーブル	1	
70009-01000-02	ツールKIT	1	

ツールKIT内訳	プラグレンチ	1	点火プラグ用
	ドライバー	1	プラス・マイナス差替式
	ツールケース	1	

18章 回路図

